

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立海南高等学校美里分校	高垣 正儀
学校所在地		
〒 640 - 1474 紀美野町毛原中 689 tel 073 (499)0034 fax 073 (499)0554 E-mail vice-principal@taisei-h-b.wakayama-c.ed.jp		
担当者名		役職名・担当教科
岡田 博行		教諭・社会科
<p><b>〔学校の概要〕</b>            本校は、海草郡紀美野町毛原中の海拔 700 付近にあり、春と秋の季節が短い気候となっています。過疎化が進み 3 年前には隣にあった小学校が中学校と統合され、高齢者が多い町となってしまいました。本校は昭和 28 年 5 月に大成高校定時制長谷毛原分校として開校されますが、この年（7 月 18 日）の大水害のため休校となり、旧小学校に移転しました。その後、昭和 30 年に現在の場所に校舎が完成し、平成 22 年 4 月には和歌山県立大成高等学校美里分校から和歌山県立海南高等学校美里分校に校名を変更しました。校区には国道 370 号線が走っていますが、国体や高野山開創 1200 年の行事等のため、道路工事が頻繁に行われています。            教育方針は「分校の窓から、世界が見える」・「一人ひとりを生かした教育」・「地域に根ざした教育活動」を基本として、4 校所合同運動会（保育所・小学校・中学校・本校）や高齢者交流ゲートゴルフ大会、また、地域のカーブミラー清掃など、他校にはない地域密着型の行事を多く行っています。            昭和 60 年代には、全校で 120 人（定員いっぱい）という時代もありましたが、地域の生徒数が急激に減少しており、現在は海南市や岩出市・紀の川市の生徒が 9 割を占めています。平成 11 年からは通学用に JR 海南駅・岩出駅から計 2 台の直行バスを走らせて生徒の通学にかかる負担を軽減するよう努めていますが、少子化等にともない、現在は全校生徒 36 名（1 年生 20 名、2 年生 9 名、3 年生 7 名）の生徒数となっています。            地域の願いで作られた経緯から、地域住民の学校への愛着が非常に強く、学校教育に対する関心と期待が大きい地域であります。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
全学年 32名	5 名 職員 11名	
実践研究テーマ		
世界遺産としての高野山を知り、その素晴らしさを体感する		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習 「ライフスタディ」	高野山を体験しよう	
<p><b>〔キーワード〕</b>            世界遺産学習 郷土学習 体験学習</p>		
<p><b>〔単元目標〕</b>            (1) 高野山の歴史について高野山への道を調べ、先人の遺業を学ぶ。            (2) 世界遺産についての知識を深める。            (3) 世界遺産マスターの説明を聞きながら、高野山の奥深さを体感する。(現地学習)</p>		
<p><b>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</b></p>		
全体 8 時間（「世界遺産を学ぼう」 最新現代社会 2 時間）		
<p><b>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</b>            和歌山県世界遺産センター …世界遺産入門 次世代育成事業（現地学習）            和歌山県世界遺産マスター            朝日放送 …「空気と高野山」 …朝日放送で放映された番組を 60 分に編集して、全校生徒に見せる</p>		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	授業 ・「和歌山県の歴史」を読み、高野山について調べる。 ・空海について調べる。	・高野山の歴史を調べるとともに、平安時代の宗教が 21 世紀まで続いて存続している理由を考えさせ、レポートにまとめさせる。	・高野山や空海について理解できたか。
2	授業 ・世界遺産として高野山と高野町石道について調べる。 ・高野山参詣道について調べる。	・資料を配付する。 ・町石道と他の参詣道も調べ、レポートにまとめさせる。	・世界遺産としての高野山への視点をもつことができたか。
3	DVD鑑賞 ・朝日放送「空海と高野山」	・空海の人物像を端的に理解できる。	ワークシート
4	平成 27 年 10 月 30 日(金)次世代育成事業 ・「世界遺産にチャレンジ」 ・壇上伽藍～金剛峰寺までを、解説を聞きながら歩く。 ・奥の院を解説を聞きながら歩く。	・「世界遺産センター」の職員の方に講和をしていただく。 ・世界遺産マスターの方に、詳しい説明をしていただきながら歩く。 ・「世界遺産センター」の職員の方に講和をしていただく。	・ワークシート ・感想文
5			

〔単元学習の成果と課題〕

成果 ふるさと学習の実践を通して、生徒に主体的に問題を解決しようとする態度が身に付いてきた。それは、生徒が、自分のよさや地域のよさにも気付き、よりよい生活を志向することができてきたということである。ここでは、総合的な学習の時間の両者をつなげて実践してきたが、総合的な学習の時間を飛躍的に高めていくことができた。それは、授業での感性の育みが、周囲を見つめる力、やがて課題設定力へとつながっていくことの証明となった。課題総合的な学習の時間において、地域の特質をはっきりさせることができる素材を、和歌山県に求めたい。地域の特質をはっきりさせることは、地域の持っている意味や価値が明らかにされるということである。そこで、各学年に1つは、多様な追究ができる和歌山県らしい学習材を用意したい。さらに、子どもの学習の様子を見ながら改良や工夫を加え、よりよいものにしていきたい。あっても気付いていない地域素材がある。指導者は、そんな地域素材を見付け出し、追究可能な単元にしていくことが求められている。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産教育では、教科教育において基礎・基本を学び、そして、世界遺産を通じて、世界を身近に感じ、世界の遠いところだけでなく、自分の身近にも大切にしたい、未来の世代にも残したいものを考える。その学習の中で、興味を持ったこと（人権、共生、環境、平和）などのテーマを見つけ広く、深い学習をしていくことにある。

- (1)世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、調べ学習（聞き取り、図書、インターネット等）を通して興味関心を持てるようになる。
- (2)身近な熊野古道を歩くことで、課題設定や課題解決、コミュニケーション能力の方法を身に付けることができる。
- (3)世界遺産センターを訪ね世界遺産の概要を学び、また熊野古道の現地学習を通して世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての興味関心を高めるとともに、世界遺産学習の素地を養うことができる。
- (4)世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」で学習したことをもとに、外国の世界遺産に関心を持ち課題設定ができる。
- (5)課題について学習したことをまとめ、自分の考えを聞き手を意識して発信することができる。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

これからの国際社会を形成する主体者として子どもたちの資質を高めるためには、世界遺産を通して国際協調の精神を培う手立てとなる授業設計が必要である。例えば、世界遺産を保全するために、国境を越えて活躍する人々の姿等に触れることで、現代社会が抱える諸課題に、自ら行動できる市民意識の育成である。

将来の社会の主体者である子どもたちが、世界遺産学習を通して ESD の概念に触れることで地球の未来に目を向けることができることは意義が大きいといえる。

## 様式 2

平成 27 年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

10月30日金曜日、32名が参加して現地学習に出かけました。当日は、天気にも恵まれ、壇上伽藍～金剛峰寺までを、解説を聞きながら歩きました。

世界遺産を訪ねてわかったことは、自分達の住んでいる近くにもすばらしい世界遺産があるということです。世界遺産とは、顕著で普遍的な価値のある物だそうです。顕著というのは、似たようなものがある中で、一番すぐれているということ、普遍的とは、外国人など、誰が見てもすごいということです。つまり人類共通の宝ということです。世界遺産の中に高野山が入っているということは、高野山も人類共通の宝だから、大事にしなくてはと思いました。世界遺産を守るための八つのルールがあると知り、世界遺産を守る人々の思いも伝わってきました。努力をしたから、高野山は、世界遺産であり続けることができるのだと思います。

